

昨年8,9月の栽培サポート課への問合せ



- 定植して2週間ほど経過しているが、活着したものとそうでないものの差が大きい
- 芯止まり、メガネが発生している。
- 8月上旬、盆前に定植したが、雨続きで根張り不足。
- 今年はコナジラミが多い。

8月は多くの方がトマトを定植される時期で、活着不良が問題になることがあります。管理のポイントは、**培地温の高温対策**です。またコナジラミの防除や9月に発生が多い芯止まり、メガネについて早めの対策を行っていきましょう。

活着不良を起こさないポイント

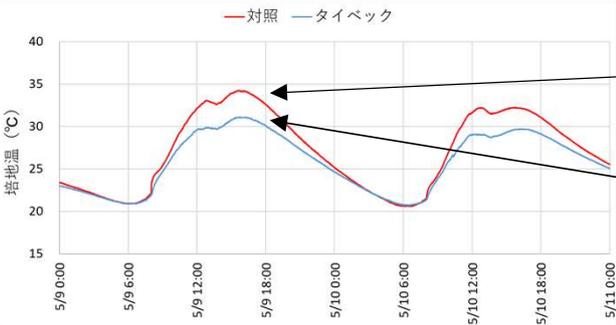
地温が35℃以上になるとトマトは定植時に活着不良を起こす可能性が大きくなります。ココバッグ栽培で、底なしポットやグローブロック苗など置くだけ定植の場合、培地表面の温度が大きく影響します。

対策：遮光カーテンやタイベック®で直射日光による地温の上昇を防ぐ



定植時の水管理のポイント

- 定植前に底の根張りを確認
しっかり伸びている
→灌水回数を多くして、活着を促す
- 根が伸びていない
→灌水回数を減らして鉢に根を伸ばすことを優先(育苗の延長のイメージ)



タイベック®なしでは
35℃近くまで地温が上昇

タイベック®ありでは
30℃程度の地温上昇に
抑えられている

* 当社研究農場5月上旬試験
ココバッグ表層から5cm下の温度を計測

芯止まり、メガネ対策

生育初期の生育トラブルに「異常主茎」があり、「メガネ」とも呼ばれています。また異常主茎になると芯止まりになりやすいです。

【原因と対策】

1. 多肥、灌水過多、吸収する肥料バランスの崩れ (窒素過剰からくる**カルシウム**および**ホウ素**欠乏)
→①着果負担がかかる前からの過剰な施肥・灌水を控える。②夜温を下げすぎない。③例年よりも葉かきを早く行う、枚数を増やす。

2. 高温多湿、日照不足により肥料の吸収が悪い
→①窒素を含まない**カルシウム**、**ホウ素**メインの肥料を葉面散布する。

おすすめ商品「TFカル」

マンガン、ホウ素を配合したカルシウム剤
キレート剤が処方されているため吸収性が高い

【使用方法】

500~800倍希釈し葉面散布
* カルシウムの原液タンクに投入することもできます

コナジラミ対策

定植・生育初期におすすめ対策薬剤
「ベミデタッチ」

【効果】

- コナジラミ類のトマトへの定着、繁殖を抑える
- コナジラミ類成虫の吸汁を阻害し、ウイルス媒介を抑える

【使用方法】

- 定植後、約7日間隔で8~12回程度散布する。残効期間は約7日間であるため、必ず定期的に散布しましょう。
- 慣行の防除体系と併用して散布してください。



【登録内容】

作物名	適用害虫	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
トマト ミニトマト	コナジラミ類	500倍	100~300L/10a	収穫前日まで	-	散布